

2019年5月25日

2019年度安藤科研A  
第一回研究打合せ会 議事録

2019年5月22日(水) 16:00 @ 東南亭

参加者：安藤、市川、南出、竹田、宮本、内田、赤松

■2018年度の進捗

□2018年度は成果を書くのが苦しかった

>今は自己評価でよいが今後外部評価が入るようになりそう(安藤)

>最近、地域研究の分野は人文地理系の審査員が多いので、申請時には分野を再考する必要も(安藤、宮本、南出)

□PLAによる参加型ワークショップができていない

>2019年度(今年度)に持ち越し

□科研も3年目なので冊子(報告書)を1~2冊作成できればよかった

>2019年度(今年度)に1冊は！

■2019年度の予定

□報告書の作成

>科研申請時にはアジア各国の過疎問題などへの認識は薄かったが最近は周囲の人びとも認識し始めている。少なくとも今科研でやっている地域の実態報告書集のようなものを出しておきたい(早くしないと新鮮味が落ちる)(安藤)。

>国際比較はまだ手薄。比較…例えばなぜ関心(自覚)がないのか。各地域で過疎が起こっているがそれぞれの地域でメカニズムは少し違う気がする。みんな経済的視点からアプローチするが、もっと社会の背景や文化なども含めて考える必要がある(安藤)

ひとまず第二回研究会のときまでに日本語版ドラフトをそれぞれ提出

原稿用紙10枚くらい

内容：現状と過疎の理由/メカニズム(仮説的なものでOK)

理由/メカニズム…経済的な側面以外からの考察も

日本農村では女性の考え方が変わった(by 宮本常一)

□住民参加型ワークショップ

>都市に住んでいる人の問題でもある。都市部に行くことが幸せなのか。都市生活の問題も含めて、農村だけでなく都市(エリート層など対象)でもやったほうがよいのでは(南出)

ワークショップ in ミャンマー

時期：8月下旬(1週間程度) 場所：マウービン(?)

ワークショップ&スタディーツアーin 韓国

>韓国は面白い話題があったので

>お金は…学長裁量経費に応募してみる

時期：1月初旬(お正月ごろ) 期間：3泊4日くらいで

■その他

第二回研究会

>7月21日(日)13:00～より東南研にて

韓国の話題(去年度の熱帯農業学会シンポジウム)

>ここ数年で人が農村に流れている(年30万人)(I/Uターン)

>若年層の収入が都市部より農村部のほうが上回っている

>国やメディアがうまく盛り上げている

ノート：赤松